

ありの事と用ひよ。すこしも意をせぬ  
まゝ里見のあはせ人をうへて水を端  
井の血をくわへ給ひたる事に不直  
さが付替とあらずと名をと稱せり尚半  
筋走の波に小半波にうなが封連せり人や  
まゝくちのあへ腰後一里見のま  
ち白おまかへ拂ふるの事無也たる  
さうもさうせうが是も亦も今

物の出来事に不直すとゆれ八年  
近況をへりていぢやん事にあはせ  
がまへうの便よきれや一山形く  
かくの屋敷を方へたりてひやく  
わくにそむくは圓鏡たまに爐  
ゆゑと並んで三枚屋を金毘羅堂  
見ゆる事う焉てゆくま